



## 神奈川県版下水道場

### ～「かながわかもめ下水道ネットワーク」の開催～

#### ■設立趣旨

本県の下水道事業は、平成27年度末で処理人口普及率96.5%となり、地域によって差はあるものの、ほぼ概成しつつある。

しかし、多くの自治体では、技術系職員の減少や、事業内容が維持管理主体となること、民間委託の増加などにより、職員が十分な経験や知識、情報を得ることが困難となり、技術力の低下が危惧されている。

このような状況を乗り越えるためには、県と市町村が連携し、組織や職種の枠を超えたネットワークづくりが有効であると考え、地方版下水道場である「かながわかもめ下水道ネットワーク」を設立することとした。

#### ■開催状況

会議名：平成28年度「事故防止に係る意見交換会」  
～神奈川版下水道場（仮称）～

日時：平成29年1月26日（木）14時～17時

場所：横浜市技能文化会館802大研修室

参加者：52名（県8名、市町村41名、公社2名、国（オブザーバー）1名）

内容：県内で公共用水域への汚水流出事故が数件発生していることを踏まえ、事故防止対策の一助となることを目的に、実際の事故事例の紹介、事故発生時の初動対応に関する意見交換、ワークショップを実施した。

（1）県からの情報提供

近年の県内における汚水流出事故の概要

（2）事例紹介（県内2市）

実際に経験した汚水流出事故について

（3）ワークショップ

想定 of 汚水流出事故に対する初動対応について

（4）効果的な取組み事例（神奈川県下水道公社）

日常点検における工夫、効率的取組みについて

（5）国からの情報提供

圧送管渠の破損による未処理下水の流出防止対策に係る事務連絡の内容について

#### 【名称の由来】

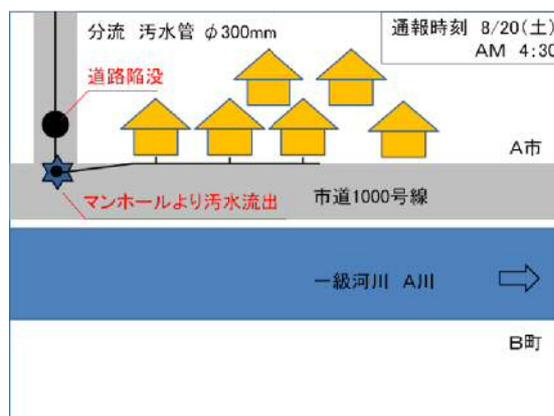
神奈川の公共用水域である海・川がいつまでも青く保たれ、また、そこに暮らすかもめ達がいつまでも元気に飛び交えるように願いを込めています。

## ■開催結果

### 参加した職員の主な感想

- ・ 自分たちの事故を発表することは大変だが、県内下水道事業の向上のためには、大変重要であった
- ・ 非常時の対応をマニュアル化する必要性を感じた
- ・ 他自治体の職員との意見交換や、実際に水質事故を経験した自治体の対応等を聞くことができ参考になった
- ・ 非常時に対応できる体制、資機材を準備しておかなければならないが、難しい。
- ・ 国の最新情報を提供していただけたことは有効である

### <想定の水質事故>



### <ワークショップの実施状況>



今後も各自治体が抱える課題や、先行取り組み事例を共有する場を設け、自治体同士の横の繋がりや、意見交換する場を継続的に提供し、下水道職員の技術力向上や問題解決に努めていく。